

平成29年度 県立鶴嶺高等学校不祥事ゼロプログラム実施状況

○ 項目・目標別実施結果

項目	目標	実施結果と目標の達成状況
①法令遵守意識の向上	教育公務員としての自覚を持ち、公務時間内外を問わず法令の遵守を心がける。そして、県民の信頼を裏切らない行動をとり、公務外非行の未然防止に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止会議において、職員行動指針の周知や、啓発資料を用いた研修を行い、事故の未然防止に努めた。 ・特に、泊を伴う生徒引率については安全配慮義務をはたす必要性を事故防止会議等を通じて周知した。 ・初任者に対しては特に、法令順守の意識付けを行った。
②わいせつ・セクハラ行為の防止	人権に配慮し、他人を尊重することにより、わいせつ・セクハラ・パワハラ行為を未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止会議において、啓発資料などを用いた研修を行い、事故の未然防止に努めた。 ・職員だけでなく生徒にも、通信手段としてのメールの適切な使用法について集会を行い周知し、不適切な使用が発生しないよう啓発に努めた。 ・生徒の困り感の解消に努められるよう相談体制を充実させた。
③体罰、不適切な指導の防止	生徒の人権を尊重する姿勢を徹底させ、体罰・不適切指導の発生を未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止会議において、啓発資料などを用いた研修を行い、事故の未然防止に努めた。 ・人権教育担当者を講師に人権・不祥事防止研修会を実施し、意識の向上を図ることができた。
④入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに関わる事故防止	入学者選抜においては、公表している内容に沿った選考を確実にを行うとともに、入選業務における入力・データ項目の確認、取り違え防止、個人情報保護に取り組み、不祥事を未然に防止する。また、成績処理、および、調査書等の進路関係書類の作成にあたっては、マニュアルに基づき複数によるチェック体制を確立し、ミスを未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者選抜業務については昨年度に続き手順等が変更されたが、研修を繰り返し行いマニュアルに基づいた処理が徹底できるように取り組んだ。データ項目の入力点検作業を複数の担当者で行い、事故を未然に防止した。 ・日常業務での成績処理や調査書発行に際しても、複数の教員によるチェックと、マニュアルに沿った点検等の業務体制が確立された。
⑤個人情報等の管理、情報セキュリティ対策（パスワードの設定、誤廃棄防止）	個人情報の適切な管理と運用の徹底を図り、個人情報の流出を未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止会議において、事故不祥事防止啓発資料などを用いた研修を行い、事故の未然防止に努めた。 ・今年度も、成績等の重要書類の印刷に色紙を使用し、鍵のかかるロッカーへの教務手帳等の保管の徹底などにより事故防止を図った。 ・テストの解答用紙は、回収後全ての回答を返却するまで、保管袋に入れ鍵のかかるロッカー等で保管を徹底した。また、余った問題用紙等の処分も返却が終了するまで行わないように、シュレッターの使用を禁止するなど事故防止を徹底した。
⑥交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通事故の発生を未然に防止するとともに、酒酔い・酒気帯び運転の撲滅を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止会議において、事故不祥事防止啓発資料などを用いた研修を行い、不祥事の未然防止に努めた。 ・飲酒を伴う会合に出席する場合には、自家用車で会場に行かないこと、自転車の運転も行わないこと、飲酒運転の車に同乗しないことを徹底する。

項目	目標	実施結果と目標の達成状況
⑦業務執行体制の確保等（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）	業務執行体制の適正化を図り、業務の協力体制を確認し、業務の効率化と事故防止を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の適切な共有を図り、保存・継承に努め、業務の効率化を推進した。 ・相互チェックが適切に行われた。
⑧会計事務等の適正執行	私費会計・部活動費等の会計処理を適正に行い、会計上のトラブルや不祥事を未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ・執行の手順確認などにより事故の未然防止に努めた。 ・予算執行の時期については、計画的で適切に行われた。
⑨定期試験の作成等における事故防止	定期テストの問題作成、点検、実施、実施後の注意点とチェック体制を確立し出題ミス等を未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止会議において、事故不祥事防止啓発資料などを用いた研修を行い、事故の未然防止に努めた。 ・各教科においてテスト問題作成時の点検を徹底し、チェック体制の確立に努めた。

○ 平成29年度不祥事ゼロプログラムの達成状況及び平成30年度に取り組むべき課題（校長意見）

平成29年度においては、事故不祥事防止啓発資料等を用いた事故防止会議の中で、様々な項目において職員の実態把握や研修を行った。その中で上記9項目においては特に周知を図ることができるように努めた。また、管理職と全職員との個別の面談を、基本的には年に2回とその他の機会をとらえて実施したことにより、職員の事故防止に係る意識の向上とチェック体制の確立を推進することができた。

平成30年度においては、「チェックポイント集」、「神奈川県教員のコンプライアンスマニュアル」（平成30年3月 神奈川県教育委員会）を用いて、改めてすべての職員に注意すべきポイントを周知徹底し、特に定期試験や学習成績の取扱、進路関係書類の作成、入学者選抜に係る誤りや事故のないように、チェック体制をさらに強化していきたい。具体的な事故事例を示し、繰り返し注意を喚起しながら、職員相互の確認体制を整備し、実践していくことにより、生徒・保護者が信頼できる学校づくりを行っていきたい。